

奪われし子

国際離婚の陰謀

その朝、千葉県印西市の中西アイ子さん(51)の長男(13)は、なかなか起きてしなかった。「そろそろ…」。

声をかけるために長男の部屋に様子を見に行ったら中西さんが見たのは、長男の自死した姿だった。

両親らにあてた数通の遺言があった。三歳になる一人息子の写真の裏にはペンで走り書きがされていた。「お母さんの言うことを聞いて立派な大人になってほしい」

大学の研究者だった長男は、妻の浮気の発覚をきっかけに離婚を決意。命を絶った二〇〇七年七月のその二カ

片方のみ親権 悲劇続く日本

10.1/12 森

3年間分からなかった長男の居場所が分かり、家庭裁判所に面会交流を申し立てたクリスティさん。昨年、東京・渋谷で長男と数時間の面会がかなった



欧米の家族観と国内法整備 共同親権
が主流の欧米では、離婚後も双方の親と子の関係や接触は維持されるべきだと考えられている。ハーグ条約は一方の親による子の連れ去りを、他方の親が子に接触する正当な権利を奪うのみならず子が親との関係を維持する権利を阻む行為とみなす。同条約加盟には親権の共同化、一緒に暮らせない親子の面会交流権の保障、日本人配偶者が海外で家庭内暴力(DV)被害を受けて子連れで逃げ帰った場合への対処など国内法の整備が必要とされている。

月前から別居を始めていた。だが、一人息子「子は母親が引き取るのが常識の日本で争いとなり、妻は息子と会わせようとしなかると難しい」。離婚の

際に子と引き離された「親権は法廷で争えばよかった。命を絶つるのが常識の日本では報を調べながら、長男は父親が親権を得るは親権を求めて悪い」。

きずな裂かれ自死

また子どもを持つ「親権者とした。警察に偽りの届けも出したことを中西さんは今も悔やむ。以来、息子と会えな

離婚後、一方の親だけが親権者となる単独親権制の日本では、親権を取れなかったもつ一方の親が養育にかかり、気づかれないよう

親子のきずなは保ち続けたいと、離婚後も定期的に子と会う「面会交流」を求める親が増えている。だが、制度として確立されておらず、回数や程度はあ

くまで夫婦間の話し合いや、司法判断に委ねられている。東京都国立市の植野史さん(50)は十一年

前、夫の暴力が原因で離婚した。家庭裁判所の調停員は「経済力のある方がふさわしい」と、夫の方を四歳の息

子(この企画は佐藤直)